

檜垣造船(株)の事業基盤強化計画(抜粋)

企業概要

- 昭和26年の創業以来、「時代のニーズに合ったよい船を建造する」という経営方針に基づき、船種を限定せず多種多様な船舶を累計700隻以上建造。
- 近年では環境規制への対応の取組を強化しており、2014年の竣工船からEEDI Phase 3対応を進めているほか、2020年には本邦初の内航貨物船での二元燃料(重油/LNG)対応船を建造した。



計画の概要

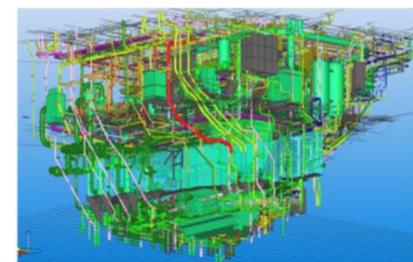
- 環境性能が高いワールドワイドのツインデッカー貨物船の開発を行う。
- 具体的には、檜垣造船建造船としては初となるSCR(選択式還元触媒)搭載により、航行区域を近海エリアからECA(排出規制)区域を含むワールドワイドに拡大する。EEDI評価値としてはフェーズ3の要求値4%超過を目指した船体開発を行う。
- また、本船型開発に並行して、造船所のDX(生産管理システム/3D-CAD設計システム等の導入)による生産性向上の取組を進めるとともに、新設した大浦工場でのブロック先行艙装体制の構築と、本社工場レイアウト全面見直しによる建造能力の増強を行う。

<計画実施期間> 2024年9月～2029年3月

<実施場所> 檜垣造船(株) 本社工場(愛媛県今治市小浦町)
波方工場(愛媛県今治市波方町)
大浦工場(愛媛県今治市大浦町)



ツインデッカー貨物船



DX化の取り組み

企業概要

- 創業は大正10年で、中型・小型タンカー船を中心に累計500隻以上を建造。
- 「常に船主各界のみなさまと一体となるものづくり」をモットーに、技術向上に努め、ニーズにあったものづくりを社員一丸となって取り組んでいる。
- 内航船省エネルギー格付5つ星取得船舶の建造実績もあり、今後は、人材確保・育成、各種機器生産能力の向上を図っていく。

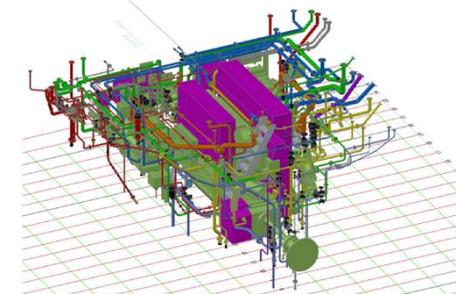


計画の概要

- 既に内航船省エネルギー格付け制度5つ星を取得している499総トン型ケミカルタンカー船をベースに、燃費性能をさらに3~5%向上させたエコシップを建造する。
- 具体的には、3D CADを用いることにより、ビルジキールをはじめとする船形の改良を行う。また、省エネルギーに資する舶用品(主機、発電機、舵)を新たに搭載する。このために必要となるに新たに配置設計を行う。
- こうした取組のため、新たにCADソフトの導入、水槽試験の実施を行う。



現行のケミカルタンカー



3D CADによる設計のイメージ

<計画実施期間> 2024年9月~2029年6月

<実施場所> (株)浦共同造船所 本社工場(兵庫県淡路市)